

1月の安全運転のポイント

平成23年1月号

安全な運転をするためには、交通ルールだけでなく、ドライバーの視覚や車の特性、運転時の危険な現象など自動車の運転に関するさまざまな知識を正しく理解しておくことが大切です。

そこで今回は、安全運転知識に関するクイズを作成してみましたので、ご自分の理解度をチェックしてみましょう。

A 次の各設問について、正しいものには○、誤っているものには×をつけてください。

- 1 動いているものを見る、または自分が動きながら見るときの視力は、静止しているときの視力よりも低下する。・・・
- 2 疲労の影響は、目に最も強く現れるといわれている。・・・
- 3 大きい車と小さい車が同じ距離にある場合、大きい車は遠くに見え、小さい車は近くに見えやすい。・・・
- 4 スピードが速くなるほど、カーブを曲がる時の遠心力は小さくなる。・・・
- 5 降雨や降雪などにより路面が濡れているときは、車の停止距離は長くなる。・・・



B 次の各設問について、ア～ウのなかから正しいものを一つだけ選んでください。

- 1 時速60キロで衝突したときの衝撃力は、時速30キロで衝突したときより（ア 2 イ 4 ウ 6）倍大きくなる。・・・
- 2 対向車のライトを直接目に受けると、元の視力に回復するまでに3～（ア 6 イ 8 ウ 10）秒かかるといわれている。・・・
- 3 高速道路で必要な車間距離の目安は、時速100キロの場合、（ア 60 イ 80 ウ 100）メートル以上とされている。・・・
- 4 高速道路出入口のETC専用レーンでは、時速（ア 20 イ 30 ウ 40）キロ以下で走行する。

C 次の各設問について、（ ）に入る適切な語句を下欄から選んで、その記号を記入してください。

- 1 下り坂などでフットブレーキを使い過ぎると、ブレーキライニングが過熱して摩擦力が低下し、ブレーキの効きが悪くなることもある。これを（ ）現象という。
- 2 路面が水で覆われた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の層ができ、その上を車が滑走し、ハンドルもブレーキも効かなくなることがある。これを（ ）現象という。
- 3 タイヤが高速で回転すると熱が発生し、タイヤが変形して波打ったようになる。これを（ ）現象という。

a ハイドロプレーニング

b スタンディングウェーブ

c フェード



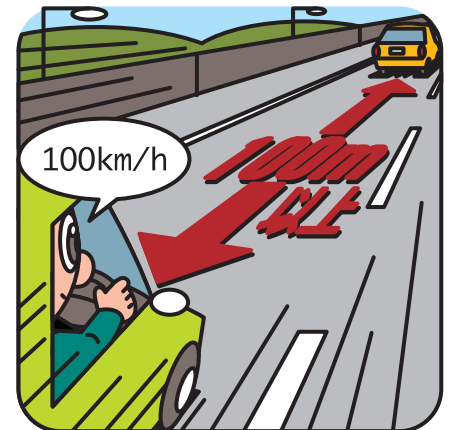
正解と解説

A 1-○ 2-○ 3-x 4-x 5-○

- 1 運転時のように動きながら見るときや、動いているものを見るときは視力を「動体視力」といい、静止した状態で見るとき（静止視力）よりもかなり低下します。また、スピードを出すほど「動体視力」は低下するといわれていますから、スピードの出し過ぎに注意しましょう。
- 2 疲労の影響は目に最も強く現れるといわれており、疲労が増すほど危険を見落としたり、危険の発見が遅れやすくなります。長距離運転時などは、こまめに休憩をとって疲労を防止しましょう。
- 3 大きい車と小さい車が同じ距離にある場合、大きい車のほうが近くに見え、小さい車は遠くに見えます。そのため、交差点の右折時に二輪車が接近していても、車体が小さいために遠くにいるように錯覚して右折をし、事故になるというケースがありますから注意しましょう。
- 4 カーブでは、車を外側に押し出そうとする遠心力が働きます。遠心力はスピードが速いほど大きくなりますから、スピードを出し過ぎるとカーブを曲がり切れずにガードレールなどに衝突したり対向車線にはみ出してしまふ危険があります。カーブでは手前で十分に減速しましょう。
- 5 車の停止距離とは、ドライバーが危険を感じてからブレーキを踏み、実際に効き始めるまでに進む距離（空走距離）と、ブレーキが効き始めてから車が停止するまでに進む距離（制動距離）を合わせた距離をいいます。路面が濡れていると、タイヤと路面との摩擦力が弱まり制動距離が長くなるため停止距離も長くなります。降雨や降雪などにより濡れた路面を走行するときはスピードを落としましょう。

B 1-イ 2-ウ 3-ウ 4-ア

- 1 車が衝突したときの衝撃力は、スピードの2乗に比例して大きくなります。したがって、スピードが2倍になれば $2 \times 2 = 4$ 倍になりますから、スピードを抑えた運転を心がけましょう。
- 2 対向車のヘッドライトを直接目に受けると、一瞬何も見えない状態になります。これを「眩惑」といいますが、眩惑されると視力が回復するまでには3~10秒かかるといわれており、大変危険な状態となりますから注意しましょう。
- 3 乾燥路面の高速道路では、時速を距離に置き換えた数字（時速100キロであれば100メートル）以上の車間距離をとりましょう。
- 4 高速道路出入口のETC専用レーンでは、時速20キロ以下で走行するとともに、前車の急停止に備えて十分な車間距離をとりましょう。



C 1-c 2-a 3-b

- 1 フットブレーキを使い過ぎるとブレーキライニングが過熱し、摩擦力が低下してブレーキの効きが悪くなる場合があります。これを「フェード現象」といいます。長い下り坂では、エンジンブレーキを活用し、フットブレーキは補助的に使用するようにしましょう。
- 2 路面が水で覆われた道路を高速走行すると、車が滑走してハンドルもブレーキも効かなくなることがあります。これを「ハイドロプレーニング現象」といいます。雨の高速道路では規制速度を必ず守り、スピードを出し過ぎないようにしましょう。
- 3 高速走行時にタイヤが変形して波打ったようになることがあります。これを「スタンディングウェーブ現象」といい、バーストなどの原因になります。この現象はタイヤの空気圧が低い状態で高速走行をした場合に発生しやすいといわれていますから、高速道路の走行前にはタイヤの空気圧をしっかりとチェックしましょう。



「ご相談・お申込先」

《皆様の安全と安心のブレイントラスト（専門顧問グループ）》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052東京都港区赤坂3-1-2 TEL：03-3582-4511